大学史研究通信

第34号、2003年3月31日（月）
大学史研究会

第33号の内容：会員ニュース・大学文書館ニュース・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

森岡　ゆかり　会員（所属変更）
新所属：京都女子大学非常勤講師

吉野　剛弘　会員（所属変更）
新所属：鹿児島女子短期大学（専任講師）

[redacted]

会員新刊ニュース

1）坂本　辰朗『アメリカ大学史とジェンダー』東信堂、2002年

2）松野尾　裕『日本の近代化と経済学』日本経済評論社、2002年

3）坂本　辰朗『アメリカ教育史の中の女性たち ー ジェンダー、高等教育、フェミニズム』東信堂、2002年

4）R・オルドリッチ（松塚　俊三・安原　義仁訳）『イギリスの教育 ー 歴史との対話』玉川大学出版部、2002年

5）望田　幸男（編）『近代ドイツ＝資格社会の展開』名古屋大学出版会、2003年

6）高橋　秀行他（編著）『地域工業化の比較史研究』北海道大学図書刊行会、2003年

7）M・サンダーソン（安原　義仁訳）『イギリスの大学改革 1809-1914』玉川大学出版部、2003年

した。

工科大学は1975年、伝統あるTechnische Hochschule の名称を Technische Universität に変えた。ドイツ言語文化の世界では、こうした「改称」に賛否両論があり、伝統をほこるアーヘン工科大学は、いまでも Technische Hochschule の名称をもち、＜ＴＨ＞であることを誇示している。ちなみにヴィーン経済大学の改称も1975年のことであった。

第二世界大戦後、工科大学の内部に、膨大な文書を整理し、アルヒーフを開設しようとする動きが生まれた。1977年に専任職員が配属され、「アルヒーフ」が設置されたが、制度的に正式な「ヴィーン大学アルヒーフ」が創設されたのは1991年になってからのことである。1977年から1990年まで、初代のアルヒーフ館長はレヒナー博士(Herr Arch. Dipl-Ing. Dr. techn. Alfred Lechner)がつとめた。レヒナー博士はヴィーン工科大学の出身、1967年に工学博士の学位を授与されている。第2代の館長はイーレッシュ博士(Herr Dipl.-Ing. Erich Jiresch)。1991年から2001年まで館長の任にあった。現在の館長はミコレツキ博士(Frau Dr. Juliane Mikoletzky)である。ミコレツキ博士はドイツのボーフムにあるルール大学の史学科の出身、1986年にルール大学で学位を取得した。学位論文のテーマは *Die deutsche Auswanderung des 19. Jahrhunderts in der zeitgenössischen fiktionalen Literatur* である。

ヴィーン工科大学の通史としては、1915年に創設百年を記念して刊行された700頁からなる『ヴィーン工科大学百年史』がある。 *Die k.k. Technische Hochschule in Wien 1815-1915. Gedenkschrift*, hg. vom Professorenkollegium, Wien 1915。しかし、その後、ヴィーン工科大学では「マトリッケル」の刊行も本格的な年史の編纂もおこなわれなかった。ただ、1942年にレヒナー博士が『ヴィーン工科大学史 1815-1940』を刊行した。また、1965年（創設150周年）には『技術史雑誌』の第27号に論文「オーストリアとヴィーン工科大学における技術と工業の展開」が掲載された。最近になってミコレツキ博士が『ヴィーン工科大学小史』ともいうべきコンパクトな入門書を『ヴィーン工科大学アルヒーフ叢書』の第3巻として刊行した。*Veröffentlichungen des Universitätsarchivs der Technischen Universität Wien*, Heft 3: *K. k. polytechnisches Institut - Technische Hochschule - Technische Universität Wien*, Wien 1997, 108 S.。ミコレツキ博士が前半の通史を、イーレッシュ氏が年表、学部構成、カリキュラムの変遷、大学の建物の歴史、学生数の変動、工科大学の著名な教授と卒業生に関する後半の部分を担当した。

工科大学の本館はバロック建築で著名なカール教会の西のとなりにあり、アルヒーフはこの大学本館の二階にある。国立オペラ劇場から徒歩5分と近い。現在、アルヒーフは830平方メートルの広さをもち、所蔵されている文書の量

原稿募集

『大学史研究通信』第35号は2003年5月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は『通信』編集担当の進藤までお願いいたします。連絡先は最終ページをご覧ください。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は『通信』編集担当進藤までご一報くださるようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定のかたも、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は最終ページにございます、進藤研究室宛にお願いいたします。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号まで希望者に頒布いたします。80円×部数＋郵送料（1部の場合90円、2部以上は120円）分の切手を同封の上、編集担当進藤宛までご請求下さい。ご連絡は最終ページをご覧ください。

編集後記

事務局員に若干の入れ替えがあり、あらたに杉谷裕美子さんが事務局に加わりました。新戦力加入で、現事務局員も大変心強い味方です。今後も若い力をどんどん事務局へリクルートしていきたいと考えております。

（進藤修一記）

『通信』編集は事務局・進藤修一が担当しております。
連絡先〒562-8558　大阪外国語大学外国語学部　進藤　修一研究室内
TEL/FAX 0727-30-5355
EMAIL　sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp
sshindo@jnb.odn.ne.jp

『大学史研究通信』第35号は、2003年5月31日発行予定です。

は2500メートルである。専任のスタッフは館長を含め3名。ここ数年間の利用者の数は年平均で60名前後であった。

これまで、このアルヒーフの文書を史料から生まれた作品には、たとえばヴィーン工業技術学校の初代の校長であったプレヒトル(Johann Joseph Prechtl)についての伝記研究があり、数学史や建築史に関する作品がある。また、現在、さかんにおこなわれている「ペレグリナチオ・アカデミカ」(*peregrinatio academica*)に関する研究として、ブダペスト大学図書館長のセギ博士が書いた『ハプスブルク帝国におけるハンガリー人学生(1790-1850)』がある。

個人的な関心からいえば、所蔵されている文書のうち、「マトリッケル」にかわる*Absolventenbuch*は貴重な史料である。とくに学生の母語(Muttersprache)の項目があり、多民族国家としてのオーストリア、とくに1867年以降のオーストリア・ハンガリー帝国の大学に関する特徴的なデータを含む。今後、積極的な活用が望まれる。

ヴィーン工科大学アルヒーフの住所は次の通りである。Universitätsarchiv der Technischen Universität Wien, A - 1040 Wien, Karlsplatz 13.

本稿の執筆にあたり、ミコレツキ博士から貴重な情報を得ました。記して感謝の意を表します。

例会報告

2003年2月22日（土）にハプスブルク史研究会との共催で、大学史研究会関西例会が、神戸大学瀧川会館で実施されました。報告者は本会会員の瀧井一博氏（神戸商科大学）で、瀧井会員がコーディネートした「日墺法史学シンポジウム」（オーストリア・ウィーンにて2003年3月20・21日開催）に向けたプレ報告となりました。あいにくの大雨にもかかわらず、遠方からの参加者もあり、活発な質疑応答がありました。（進藤）

事務局からのお知らせ

事務局員の交替

局員の交替について、事務局内で以下のように決定いたしました。
退任予定：橋本鉱市　局員、阿曽沼明裕　局員（総会にて退任承認申請）
新任：杉谷祐美子　局員（総会にて新任承認申請）

事務局内のうちあわせで上記事項が内定いたしました。正式には１１月に開催予定の総会に提案いたします。

２００３年度　年会費納入のお願い

4月1日付文書でご連絡させていただきましたように、本年度も大学史研究会年会費（金5,000円）の納入をお願いしております。研究会の円滑な運営と今後の発展に向け、各位のご理解たまわり、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。 大学院等在学、日本学術振興会会員の各位には「院生・学生会費」制度が適用されます（年会費　3,000円）。該当の院生・学生会員各位はご留意願います。

なお、三箇年度分以上の年会費滞納会員には、年会費の納入があるまで、大学史研究会からの諸通信、及び「大学史研究」等の発送を停止することが総会で決定しております。該当の各位におかれましては、研究会参加ご意思確認の文書をすでにお受け取りのことと存じます。今後も継続してご参加くださる場合は、滞納年度分も含め年会費の納入をよろしくお願いいたします。

年会費納入に関し、ご不明の点は事務局・会計までお問い合わせ願います。

年会費払込先

郵便振替口座　　大学史研究会　　口座番号　　00120-3-47583

または

銀行口座　　「大学史研究会」
三井住友銀行　池袋東口支店　　普通口座　（口座番号　3456109）

（文責：事務局会計担当　大川　一毅）

「<ドイツ>の工科大学とヴィーン工科大学アルヒーフ」

早島 瑛 (関西学院大学)

「ドイツ」の大学の歴史をみるとき、ややもすれば、現在のドイツ連邦共和国の版図でドイツをイメージしがちである。仮にそうでないとしても、オーストリアの大学への関心は、一般に、いまひとつといってよい。また「フンボルトの改革」に幻惑されないつもりでいても、つい、オーストリアよりもプロイセンのドイツが、大学の先進国であるかのように考えがちである。

ところが、19 世紀の初頭、パリのエコール・ポリテクニークをモデルに、「ドイツ」にも工業技術学校がつくられたとき、その「ドイツ」はプロイセンではなくオーストリアであった。ドイツは 1815 年、39 の独立国からなる「ドイツ同盟」(Deutscher Bund)として再編成されたのであるが、オーストリア政府はこの 1815 年に首都のヴィーンに工業技術学校(k. k. polytechnisches Institut)を創設している。現在のウィーン工科大学である。講義は 1815 年 11 月 7 日に始まった。この日は化学(Prechtl)、物理(Neumann)、数学(Hantschl)が講義されたという。

また、規模は小さかったが、ヴィーン工業技術学校に先行して 1806 年、ハプスブルク帝国の経済先進地帯であるベーメン王国が首都のプラハに工業技術学校(k. böhm. ständisches polytechnisches Institut) をつくった。現在のドイツ連邦共和国の版図では、1825 年創設のカールスルーエ工業技術学校、後の工科大学が最初である。

オーストリアは、また、商科の歴史でも先進国であった。ドイツで最初の商科大学は 1898 年の春、ザクセンのライプチヒに開設されているが、同年の秋にはヴィーンに輸出アカデミーが創設された。現在のヴィーン経済大学である。これについては八木紀一郎会員の「オーストリアの大学と経済学・補論」(『大学史研究』第 7 号) を参照されたい。ただ、輸出アカデミーで先行すること 80 年(1818 年)、ヴィーン工業技術学校のなかに、はやくも「商業科」(Kommerzielle Abteilung)が併設され、商科教育が開始されているので、現在のヴィーン経済大学の間接的な起源をここにもとめる考え方もある。

ヴィーン工業技術学校は 1872 年に工科大学と改称された。じっさいには 1865 年の学則改正以降、実質的に工科大学であった。さらに 1901 年に学位審査権を獲得した。アーヘン工科大学など、ドイツの工科大学の博士号は Dr.-Ing.であるが、ヴィーン工科大学の工学博士は Dr.techn.とよばれた。正確には Doktor rerum technicarum である。翌 1902 年には、はやくも 7 名の工学博士が誕生

大学史研究会事務局

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1
大阪外国語大学外国語学部　進藤　修一研究室内　大学史研究会
TEL /FAX 0727-30-5355　EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

阿曽沼　明裕　(名古屋大学)
進藤　修一　(大阪外国語大学)
橋本　鉱市　(東北大学)
吉村　日出東 (明治大学)
大川　一毅　(早稲田大学)
杉谷　裕美子 (早稲田大学)
福石　賢一　(九州女子大学)